

年頭ご挨拶

2020年1月吉日
一般社団法人 海外環境協力センター
理事長 竹本和彦

新年あけましておめでとうございます。
2020年の年頭に当たり、ご挨拶を申し上げます。

2020年は、OECC設立30周年を迎える記念すべき年です。OECCでは30周年を迎えるにあたり、OECC活動にゆかりのある有識者の皆様のご参画を得て、これまでの活動を総合的に評価するとともに、将来の進むべき方向性について議論頂くことを念頭に、「30周年記念誌上座談会」を昨年10月に開催しました。この座談会の様子については、OECC会報（第88号、本年1月発行）に特集記事として掲載されています。

この座談会では、今後OECCの目指すべき方向として、OECCが世界の社会全体の持続性と安定性に寄与することを目的とする団体であるというイメージを明確にしていくことが望ましいのではないかと、また今日の環境問題は、先進国、途上国の別を問わず、持続可能な開発の文脈で解決策を見出していくべきとの基本的考えに立ち、OECCは今後とも「海外環境開発協力」の中核的拠点としての役割を果たしていくべきとのご指摘を頂きました。

また環境協力に関する戦略立案に向けた貢献に関して、戦略そのものは、政府機関の責任において策定されるべきものであるが、その策定過程においては、様々な現場の事情などを踏まえておくことが不可欠であることから、OECCは現場の事情に精通した知見を有する専門家集団として多角的かつ広角的な視点から貢献できるのではないかとのご意見も賜りました。

さらに会員の皆様とも連携して、より一層民間企業を巻き込んだ取組や国際金融機関や国際資金メカニズム等との連携強化などについても今後の課題として取り上げられました。

これら諸課題については、30周年記念行事（本年6月予定）の一環として開催する「橋本道夫記念シンポジウム」（第3回）において議論をさらに深めるとともに、向こう30年先をも見据えた議論の出発点として活用していきたいと思っています。

OECCは、昨年12月にマドリッドで開催された国連気候変動枠組条約第25回締約国会議（COP25）において、環境省はじめアジア諸国の政府機関や世界資源研究所（WRI）などとの連携の下、数多くのサイドイベントを開催し、本年から始

まる「パリ協定」の本格実施に向けたモーメンタムの醸成に貢献しています。また、1月にバンコックで、OECCが事務局となって「日本・タイ環境ウイーク」が日本環境省とタイ国天然環境資源省の共催で開催されるのを皮切りに、本年も環境分野で多くの国際行事が目白押しです。

OECC としましては、本年も「海外環境開発協力の中核的拠点」としての役割を果たすべく、一層充実した活動を推進してまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げ、私の年頭のご挨拶と致します。